



作品が映える展覧会を作る。
試行錯誤の連続ですが、
難しい展示ほどやりがいがあります。

三上 俊希

令和2年度採用 事業推進グループ

美術研究科 彫刻専攻 修了

志望動機や入職の決め手を教えてください。

前職の芸術大学の助手や非常勤講師から転職を考えた際、あらゆる職種・会社を調べましたが、心の底からしたいと思う仕事は見つかりませんでした。そんな時かすがい市民文化財団が、地域のアーティストを小学校などに派遣する（アウトリーチ）事業に力を入れていると知りました。この、「市民に芸術・文化の普及ができてアーティストには成長の場を与えられる」というのは、講師や作家の経験がある私にはとても魅力的でした。「自分の経験を芸術の楽しみや喜びを次の世代に伝える手助けに活かしたい。」と思い入職を決めました。

どんな仕事をしていますか？

主に美術系事業を担当しています。例えば財団主催の展覧会担当として、作品選定・展示や関連イベントの計画など、あらゆる事柄を作家の意向をもとに内外の調整をして開催へと進めます。また毎年夏に恒例の「市民美術展覧会」も担当します。こちらは出品数600点を超える公募展で、募集から受付、会場設営、審査会・表彰式・展覧会運営までと、約半年かけて他の業務と並行してこなします。加えて美術系アウトリーチ事業では、講師として小学校などで子どもらに創造の機会を提供することもあります。展覧会などの前後は、現場の設営などで作家や職員らと肉体労働しますが、日常的には資料作成や会計処理など事務作業をしています。

とある1日のスケジュール

- 8：30 始業 決裁・伝票・メールのチェック
- 9：00 グループ内での朝礼
展覧会下見・作家打合せ
- 11：30 昼休憩（1時間）
- 12：30 展覧会の会場プランを計画
作品の試し展示
- 16：00 決裁・伝票・メールのチェック
翌日以降の業務引き継ぎ
- 17：15 終業 退社

※展覧会の設営など繁忙期には残業もします。



印象深かった仕事は何ですか？

担当した仕事すべてです（笑）が、中でも印象深いのは昨年（令和3年）開催の「やまなみ工房展」です。福祉施設「やまなみ工房」の利用者である38名の作家の、全147点という大量の作品を選定から展示まで、すべて任せてもらいました。展示と言っても並べるだけでなく、作品の内容や作者との関係性が見えるような配置で、鑑賞者がわくわくする・リズムを感じる会場になるよう努めました。

仕事のやりがいを教えてください。

作家は独自の方法で編み出した表現や、展示方法を持っている方が多くいます。そのため、会場設営も様々なスキルやテクニックが求められます。作品がよく見えるよう細かく環境を整え、効果が出るかどうか試行錯誤の連続です。難しい展示ほど困難ですが、やりがいがあります。

入職前後のギャップはありましたか？

「美術業界は残業が多く、休みが少ない過酷な職場」といったイメージがありましたが、まったくそんなことはありませんでした。ほぼ毎日定時で帰宅しています。もちろん展覧会前には残業が増えることはありますが、しっかり残業代も支給されるので、安心して働けます。

また役職に関わらず、どの職員も未経験や不慣れな相手に対して、気軽に指導してくれるので、気持ちが楽になりました。

休日はどう過ごしていますか？

基本的に土日祝日はコンサート・展覧会などの本番・運営があり、出勤となります。休みの日に急に友人から誘われ、ゆっくりカフェに行くといった事はなかなかできなくなります。しかし、シフト制勤務になるので、1カ月前に希望を提出することで土日祝日も休みを取ることが出来ます。休みの日には出勤する日と同じ時間に起床し、趣味や自由な時間を少しでも長く過ごせるようにしています。やはり展覧会はよく見に行きます。シフトで平日休みの日は、道路も会場も空いてて快適です。

入職してから、自身に変化はありましたか？

仕事と私生活にメリハリをつけて行動するようになりました。定時で仕事が終わるようにしっかりと仕事をし、終業と同時に家で何をするかを考えながら帰宅します。「もったいない時間を過ごしてしまった」と後悔しないように日々過ごしています。

そのほかにも、本をたくさん読むようになりました。美術に関わる本から小説まで、いろんな本を読んでいます。

受験者へ一言お願いします！

自分の限界を自分で決めないでください。自分を信じて行動することで、相手から信頼されます。まずは自信を持って挑戦することが大切です。



悩んだら「わくわくするのはどっちだろう？」と考えます。

就活も同じで「わくわくする方」を選べば後悔はないと思います。

二村 優衣

平成 29 年度採用 施設サービスグループ配属

令和 3 年度 総務グループに異動

教育学部 初等教育教員養成課程 卒業

かすがい市民文化財団に入社した理由を教えてください。

幼いころから舞台やコンサートに連れて行ってもらうのが大好きでしたが、大学の教育実習で、生のステージを観たことがないという子ども達に出会い、「子ども達に芸術文化を紹介し、楽しんでもらえる仕事に就きたい」と思うようになりました。卒業後、劇場スタッフを転々としていたときに財団広報誌 FORUM PRESS を見て、こんな自由な財団があるんだ！？と驚いたのと同時に「ここで働きたい」と思い、採用試験に申し込みました。

どんな仕事をしていますか？

職員の採用手続きから労務管理、日々の経理処理と年度末の予算・決算事務、役員会議の運営・資料作成などなど…。要するに「職員が働くためのサポート全般」と「法人運営に必要な事務諸々」をしています。デスクワークがメインですが、割と何でも屋さんです(笑)

とある1日のスケジュール

- 8：30 始業 メールチェック、経理伝票処理
- 9：30 銀行で出入金、市役所関係部署へ文書提出・受領
- 10：00 申請書類作成など決裁作成
- 11：45 届いた郵便物の受領処理と振分け
- 12：00 昼休憩（1時間）
- 13：00 メールチェック、経理伝票処理
申請書類作成など決裁作成の続き
- 15：30 発送する郵便物のとりまとめと集荷対応
申請書類作成など決裁作成の続き
明日以降の業務の確認・申し送り
- 17：15 終業 退社

※予算編成や決算処理等、繁忙期は残業もします。



印象に残っている仕事は何ですか？

施設サービスグループのとき担当した市民会館全体を使った謎解きゲームです。当時財団で謎解きを運営した職員はおらず試行錯誤しましたが、たくさんの家族が声を上げて楽しんでいる姿を見て、頑張ってたかったと思いました。

現在の総務グループには昨年6月に異動して、同時に初の決算期を迎えて大変でした…。ですが、すべての数字が正しく綺麗にはまったときはとても気持ち良かったです☆彡

仕事のやりがいを教えてください。

総務は事務作業が多く目立ちませんが、職員の働き方や財団の在り方に関わる仕事を任されています。常に「正しく遅滞なく」とプレッシャーも感じますが、その分達成感も得られます。何より、仕事で得た知識を次に活かせることが嬉しくて、自ら簿記の資格も取得しました！

入職前後のギャップはありましたか？

「芸術文化を扱う職場なら専門知識が必須」だと思っていましたが、分からないことを素直に質問すれば、上司や先輩方に優しく教えてもらえるので、安心したのを覚えています（もちろん知識はあるに越したことはありません）。

休日はどう過ごしていますか？

コロナ前は、よく2.5次元の舞台や押しバンドのライブを観に、東京や大阪にも遠征していました。最近は美術館に行ったり、自宅で料理や三味線を弾いたり新たな楽しみも増えました。

入職してから、自身に何か変化はありましたか？

自分は人とのコミュニケーションが苦手だと思っていたのですが、施設サービスグループの貸館業務で色々なお客様と関わるうちに、それが楽しくなって行って「実は私、人と関わるの好きなんだ…！」と気づかされました。

受験者へ一言お願いします！

私は、悩んだら「わくわくする方はどっちだろう？」と考えます。就活も同じで「わくわくする方」を選べば後悔はないと思います。

『公益法人』と聞くと、何か堅苦しい会社なような、民間企業とどう違うのかと不安に思うかもしれません。私なりの解釈ですが、『公益法人』とは『誰かの心と生き方を豊かにするために活動する会社』であり、かすがい市民文化財団は、“芸術文化”でその目標を達成しようとする会社だと思っています。「自分の仕事が誰かの豊かさにつながる」と考えたら、わくわくしませんか？

もし、かすがい市民文化財団のHPを見て、就職説明会を聞いて、そこで働く自分を想像してわくわくしたなら、ぜひ採用試験に申し込んでください！お待ちしております！